

校長室だより

平成 23 年 (2011 年) 12 月 7 日

校長 山中 一仁

おおらかな心を持つ生徒

本校のめざす生徒像は、校名「きたおおじ」にちなんで

き	-----	基礎基本を大切にする生徒
た	-----	たくましく成長する生徒
おお	----	おおらかな心を持つ生徒
じ	-----	自主力行に励む生徒

です。

この4つの「めざす生徒像」のうち、「おお」は、おおらかな

な心で人に接し、いつも心の中に、「ありがとう。」という感謝の気持ちや思いやりの気持ちを持てる人になろうというものです。

さて、『心』は誰にも見えないけれど、『心遣い』は見える。『思い』は見えないけれど、『思いやり』は誰にでも見える。」という日本公共広告機構のコマーシャルが、テレビで流れていたのを覚えている人は少なくないと思います。「ごくろうさまでした。」とか「大丈夫ですか。お手伝いしましょうか。」といった『心遣い』や『思いやり』は、言葉がけや行為として現わされますから、「見える」という表現のように私たちにはよくわかるのです。コマーシャルは、『心』や『思い』があっても、言葉がけや行為につながらなければ意味がないように捉えてしまいそうな映像でしたが、『心』や『思い』は、人が行動をしようとする原動力です。本当に大切なのは、『心遣い』や『思いやり』を生む、見えない部分としての『心』や『思い』だと思います。

ところで、この『心』や『思い』は、人が人と接する中で育まれます。

家庭にはこれらを育むための肥料がたくさんありますし、一方、学校や地域にはこれらの種がたくさんあります。学校の場合、たくさんの方を学ぶことによって自分の中にこれらの種を蒔きます。この種には、例えば基礎的・基本的な教養や学力、体力があります。また、努力によって多くの失敗から成功をつかみ取った自信であったり、がまんする忍耐力、あるいは、ルールの大切さを知ることによって身につけたマナーや礼儀などもあります。学校は家庭ほどの肥料はないかもしれませんが、種はいっぱいあります。

ご家庭には及びませんが、私たち教職員は、学校にもできるだけたくさんの肥料を用意します。生徒の皆さんは、自分の中に『心』や『思い』の種をいっぱい蒔き、大きく育ててほしいと思います。

家庭・地域・学校が連携協力し、三位一体となって、生徒たちの心豊かな成長を見守り、支援していけたらと願っています。

